

# IEA鉱物資源レポートに関するウェビナー

## 鷲尾外務副大臣ご挨拶(和文仮訳)

IEAビロル事務局長、ご登壇者の皆様、各国からご参加いただいております皆様、

日本の外務副大臣の鷲尾英一郎です。本日は、このような重要な機会にお招きいただき、また発言の機会を頂きまして誠にありがとうございます。

本レポートについては、21世紀のエネルギー安全保障が何たるかを示す画期的なレポートであると報告を受けており、本日のブリーフィングに参加することを非常に楽しみにしておりました。

2020年は、日本を含め多くの国が脱炭素化への決意を表明する象徴的な年でありました。既に世界のGDPと排出量の70%を超える国々に上っているとのことであり、これは大変心強いことだと考えます。

そして、2021年は3月のIEA・COP26 ネット・ゼロサミットにはじまり、G7、G20や気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)など、重要な会議が目白押しな年となっております。

このような重要なタイミングで、本レポートが真に脱炭素社会を実現する上で乗り越えるべき課題や、解決のための視座を提供してくれたことは、大きな賛辞に値します。ビロル事務局長をはじめ、本レポートの作成に携われた全ての専門家の方々に、改めて敬意を表したいと思います。

本レポートで取り分け重要なのは、本レポートがエネルギー安全保障を再定義していることです。

脱炭素社会の実現に向けて、エネルギー安全保障が、従来の「燃料集約的(Fuel Intensive)」なものから、「原材料集約的(Material Intensive)」なものに転換するという視点です。

エネルギーとして消費される燃料ではなく、再エネを生産する設備の建造ための原材料の確保やリサイクルの在り方が、エネルギー安全保障の中核となるという考え方に、私は感銘を受けました。

そして、本レポートでは、現在のままでは、パリ協定の目標達成に必要な鉱物需要を満たすことができないと、警鐘が促されています。しかしながら、エネルギー転換の遅延や、エネルギー価格が高騰した脱炭素社会という未来を、将来世代に託すわけにはいきません。

加速化したエネルギー転換に十分対応できる投資規模やプロジェクトの拡大及びイノベーションの促進が急がれます。

鉱物資源の将来的な安定確保のためには、公正な市場の実現、人権の保護、透明な労働基準の確保や環境への配慮など、解決しなければならない課題が山積しています。

これは、国際社会が努力の末に獲得してきた普遍的な価値に基づいたルールを、鉱物資源の分野にも拡大する必要があるとの新たな挑戦とも言い換えられます。

今後、国際場裏、官民、及び消費者が一丸となった議論が必要であり、我が国としてもあらゆる機会を活用して積極的な提案を行っていく考えです。

最後に、本レポート及びウェビナーが、新しいエネルギー安全保障に関する国際社会の理解の向上に貢献する重要なものとなることを祈念して、私からの御挨拶とさせていただきます。

ご清聴有り難うございました。

(了)